

平成25年(2013年)3月発行

いんぷおめーしょん information

(「くにたちのとしょかん」通号117号)

くにたち中央図書館

〒186-0003 国立市富士見台 2-34

☎042-576-0161

くにたち北市民プラザ図書館

〒186-0001 国立市北 3-1-1 9号棟

☎042-580-7220

<https://www.library-kunitachi.jp>

冬から・・・

春へ・・・

“新年度” “新学年” “新生活”の始まる季節は

体調不良も起こしやすい季節？！

春は一年の中でも気温差の大きい季節で、最近の天気予報の中でも体調管理への注意喚起をよく耳にします。20年以上前の記憶ですが、ドイツでは「健康天気予報」なるものをしているとのこと。あらためてネット情報をみると、すでに50年前には新聞に「医学気象予報欄」がありました(註¹)。

ところで、自然環境、人工的な環境が生命に及ぼす影響について研究する生気象学(バイオウエザー)をご存知ですか？

バイオウエザー(生気象学)で体調を予測できる？！

昔から、「神経痛が出ると雨になる・・・」など、天気と健康について言い伝えられていたことも、近年はそのメカニズムが科学的・医学的に明らかになってきているようです。もっと深刻な、心不全や心筋梗塞といった疾患と気象の関係性についても研究されており、新聞や雑誌記事やコラムなどにも採り上げられています。1962年に設立された日本生気象学会によると、生気象学は「生命とその環境を取り扱うグローバルな学問分野」であるということですが、今回はその中でも、主に気象と健康(病気)に関するものについて紹介します。

◆**医学気象予報 バイオウエザー・病気と天気の不思議な関係** 吉野正敏・福岡義孝／著
角川書店(未所蔵) 2002

◆**からだの中の夜と昼(中公新書)** 千葉喜彦／著 中央公論社 分類:S, 481 1996

◆**気候風土に学ぶ 暮らしと健康の歳時記** 吉野正敏／編 学生社 分類:498.41 2004

◆**気象で読む身体(講談社現代新書)** 加賀美雅弘／著 講談社 分類:S 1991

◆**気象病 天候が健康を脅かす** 村山貢司／著 日本放送出版協会 分類:S 2006

季節の変わり目に体調を崩したり、持病が悪化するのには、気象の変化に身体のリズムがついていけないため。このような疾病から健康を守るための基礎知識や日常生活での注意点・気象情報の正しい見方などを解説

◆**健康と気象(気象ブックス)** 福岡義孝／著 成山堂書店(未所蔵) 2008

¹ Bio Weather service 健康&天気予報(いであ株式会社)連載エッセイ 暮らしの中のバイオクリマ(3)ドイツの健康天気予報 吉野正敏／著

昔から伝わる気象と健康の関わりを、最新の研究で説明。四季を通じた健康歳時記や、衣食住と健康の関係、地域特性を示した健康マップ、海外で先行している医学気象予報なども紹介する。

◆**体調管理は天気予報で！！** 村山貢司／著 東京堂出版 分類：498.41 2012

その不調、天気のせいかもしれない…。本書では、季節ごと、さらには月ごとに注意しなければならない病気と天気の関係を、天気予報のキーワードをもとに、よく起こる症例や予防対策を解説する。

◆**体調予報 天気予報でわかる翌日のからだ** 河合薫／著 講談社（未所蔵）2001

◆**天気を味方にして 100歳まで元気に生きる方法** 石川勝敏／著 グラフ社
分類：498.38 2008

風土や季節が体に及ぼす影響については、普段ほとんど意識しない。本書では、気候・気象と体の機能を通して食生活をとらえ、食べ物の好き嫌いや、体・季節によって異なる味と体の変化など、不思議な実態を考える。

◆**天気予報をみて脳卒中を予防しよう！** 福永篤志／著 碧天舎（未所蔵）2005

◆**人間・気象・病気 気候内科へのアプローチ** 加地正郎／編著

日本放送出版協会 分類：498.41 1975

◆**人間と気候（中公新書）** 佐藤方彦／著 中央公論社 分類：S 1987

◆**ビューティー予報 春夏秋冬** 河合薫／著 講談社（未所蔵）2003

◆**病は気象から 天気予報で病気予防** 村山貢司／著 実業之日本社（未所蔵）2003

私たちの祖先は古来より、季節の移ろいや気象条件、生き物の様子を二十四節季・七十二候などに表し農作業などの目安として、自然の大きな流れの中で営みを繰り返してきました。命を生み出す分野でも大きな力を得た人類ですが、今、「科学」という手法で進められている「人と気象の関係」の研究結果は、「人」が自然の影響を大きく受け、自然の一部であることをあらためて示しているようにも思えます。皆さんはどうお感じになりますか？

書棚にないときはリクエストしてください。未所蔵資料は他機関へ手配をいたします。

今月のレファレンス

質 問	回 答
千代田生命の創業者 <small>かどのいくのしん</small> 門野幾之進の邸宅（栃木県？）二階を、ひな祭りの時期に期間限定で開放しているようだが、詳細を知りたい。	・「門野幾之進」で調べると、三重県鳥羽市にある記念館がヒットし、栃木県とは結びつかない。 ・最近の朝日新聞にも記事が載っていたとのことだった。 また、社名や人名も記憶が不確かだとのことだったので、オンラインデータベース「朝日新聞聞蔵ビジュアルⅡ」で、キーワード“邸宅”で記事検索をする →2/13（水）夕刊 b e 3 面、遠山記念館の「雛の世界展」であることがわかった。（日興証券創立者 遠山元一の邸宅） 706.9『首都圏美術館博物館ガイドブック』（メイツ出版 2008）や遠山記念館HPなどを紹介
韓流時代劇ドラマで兵士がかぶっている笠のようなかぶり物の名前はなにか	・[778][383.1]あたりを探す→383.1『韓国の服飾』（文化出版局 1983）を見るが、図が一種類しかないため、該当のものが分かりにくい。 R 221『朝鮮を知る事典』（平凡社 2000）P45「被り物」の項に数種類掲載あり。（図あり）

調べごとなどはお気軽に図書館職員におたずねください。

こどもブックフェスくにたち

平成 13 年、国は子どもの読書活動が「言語を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものである」とし、「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」と



の理念のもと、子どもの読書活動推進を目的に、4月23日を「子ども読書の日」と決めました。法制定から若干時間はかかりましたが、国立市は平成20年に「国立市子ども読書活動推進計画」を策定し、幼児および小学生に向けたブックリストの作成や、初めての絵本体験として、図書館の中だけでなく保健センターの乳児検診に出向き「おひざにだっこの絵本読み」などの事業を定期的実施しています。

人は「ことば」を獲得し文字を作り、自らの意思を伝え他者を理解することで進化し、多様な文明を築いてきました。子どもの成長は「人」の進化の縮図ともいえるでしょう。図書館では、法制定のはるか前、昭和49年の開館当初より、子どもたちが「ことば」や「活字」の世界を楽しみ、その結果獲得するであろう「想像力」は、その後子どもたちの時間を豊かなものにするはずと考え、「えほんのじかん」（当初は5歳から）「お話の時間」（小学生から）を実施してきました。開館当初、「えほんのじかん」は主に職員が担当し、「おはなしの時間」は、当時、市内に複数あった「家庭文庫」主催者や東京子ども図書館などでストーリーテリング（素話）を学ばれていた「くにたちお話の会」のメンバーが担い手となってくださいました。職員も徐々に力をつけ、中央館や分室での「おはなしの時間」を担当するようになります。

そのような中で始まった小学校へ出向いての「おはなしの時間」は、昭和61年に図書館が現場の先生方へはたらきかけ、国立第三小学校から始まりましたが、30年近くになる今もボランティアの協力を得ながら続いているところです。また、同時に子どもたちの身近に本があることの重要性を肌で感じられていた先生方のご要望にこたえ、各クラスへの本の団体貸出しも行いました。

国立市に限らず多摩地域の図書館では、おはなし会やえほんのじかん、ブックトークや子ども地域資料作成等々、児童担当がそれぞれの地域や職員の個性・力量に合わせ事業を展開してきましたが、「活字

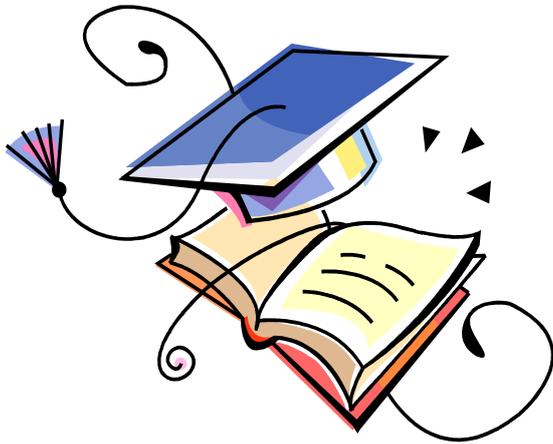


ばなれ」に歯止めがかけられず、法制定が必要なほどになってしまったことは、誠に残念なことです。

さて、今年、くにたち図書館では、4月23日の「子ども読書の日」に向け、3月下旬から「こどもブックフェスくにたち」と題して、本の世界の楽しさを知ってもらう、体験してみる事業を企画し市報でお知らせしています。残念ながら、すでに終わってしまったものもありますが、まだ間に合うものをご紹介します。(お問い合わせは中央図書館児童室へ)

★3月23日(土) 講演会 「子どもの本 読む楽しみ・書く楽しみ」
講師 藤田のぼる(子どもの本作家・評論家)
会場 くにたち中央図書館 集会室 午後2時から
児童文学の作家として、また評論家としての視点から、子どもの本の動向や読書環境についてお話をいただきます。

★3月24日(日) 図書リサイクル 午前10時から 東分室(申込不要・冊数制限あり)



★4月21日(日) お楽しみこども映画会
中央図書館 2F 集会室 午後2時から
小学生以上(小学生以下の方には保護者の付き添いが必要です。)

★4月1日(月)から5月31日(金)
一橋大学サークル「えん」と図書館YAスタッフによる中央図書館YAコーナーの展示です。どんな本にスポットがあてられるか?気付かなかった・知らなかつた世界との出会いのチャンスかも・・・?!

「国立市子ども読書推進計画」について

「国立市子ども読書推進計画」策定からまもなく5年となります。くにたち図書館では学校現場や児童館をはじめとする関係部署との連携や共同事業を模索しながら推進計画に沿った事業を実施してきました。平成24年度は、図書館をはじめ子どもや本に関わりのある部署が実施してきた37ほどの事業について検証し、現在は次の計画策定に向け素案づくりのため検討を重ねているところです。素案はまもなく4月末にはまとまる予定で、それをもとに職員間での討議・関係部署との意見調整や議論ののち、広く市民の皆様のご意見をいただく(パブリックコメント)機会をもち、今秋には第二次計画決定というスケジュールです。

図書館では、子どもの本についてのご質問やご相談にいつでもお答え(時には一緒に考えます)いたします。お気軽にお声をかけてください。